

鶯は陽氣補ひ脾をたすけ物ねたみすることをへらす

〔出雲風土記意字郡〕凡諸山野所在略○中禽獸則有略○中鶴字或作黃離

〔萬葉集五〕梅花歌三十二首并序

天平二年正月十三日萃于帥老之宅申宴會也略○中宜賦園梅聊成短詠略○中

鳥梅乃波奈知良麻久怨之美和家會乃乃多氣乃波也之爾于具比須奈久母少監阿氏與島

〔萬葉集八〕春雜歌大伴宿禰家持鶯歌一首

打霧之雪者零乍然爲我二吾宅乃苑爾罵鳴裳

〔古今和歌集一〕春の始の歌

春きぬと人はいへども鶯のなかぬかざりはあらしとぞ思ふ

みぶのたゝみね

寛平時時きさいの宮の歌合のうた

大江千里

鶯の谷より出る聲なくば春くることをたれかまらまし

〔古今和歌集十九〕題まらず

讀人しらす

梅の花みにこそきつれ鶯のひとくくといとひしもをる

〔後撰和歌集三〕ねやのまへに竹のある所にやどり侍て

藤原伊衡朝臣

竹近く夜床ねはせじ鶯のなくこそきけば朝いせられず

〔朝光卿集〕四條宮大盤所にこれさだめてとのたまへるに

鶯の春のはつねと時鳥よぶかくなくといづれまされり

とあるを人々さだめさせ給に

折からにいづれもまさる鳥の音を時ならぬみはいかゞ定めん

〔拾遺和歌集一〕延喜御時月次御屏風に

素性法師